



発行/伊勢原市 編集/広報戦略課  
〒259-1188 伊勢原市田中348番地  
☎0463-94-4711(代)  
☎0463-93-2689



市公式  
ホーム  
ページ

伊勢原市

検索

「いせはら 暮らし安心メール」の  
配信登録や閲覧は、市ホームページから



伊勢原市  
公式イメージキャラクター  
クルリン

おもな記事 ● 2面・・・伊勢原の3大ロードレース大会 ● 4・5面・・・来て・見て・知って 楽しもう！

発行部数/39,700部



## 牛飼いなご 活躍中!!

神奈川県最大の酪農地帯である伊勢原市。市内には32戸の牧場があり、乳牛の飼育頭数は県内一位を誇ります。

力仕事が多く、体力が必要なイメージのある酪農業ですが、近年は機械化が進んだこともあり、「牛飼い」を志す若い女性が増えつつあります。

飼っていた牛がかわいくて、酪農の仕事に興味を持つようになったんです。

大学を卒業し、埼玉県内の酪農家で経験を積んだ後、地元神奈川で働きたいと帰郷。勤務先を探していたとき、高校の同級生だった荒井裕人さんからの誘いを受け、3年前から荒井牧場で働いています。

荒井牧場(西富岡)の従業員・山崎真美さん(27歳)

も、そんな女性の一人。

「子どものころから動物が好きで、将来は自分の手で育てたいと農業高校の畜産科に進みました。高校で

一日の仕事は大きく分けて3回。朝は5時30分から牛舎を掃除し、牛の体を洗って餌やりと搾乳を行います。休憩を挟み11時から、ふんの処理や餌の補充。夕方からは2度目の清掃と餌やり、搾乳を行



い、午後8時30分に全ての作業が終わります。現在は約70頭の牛を世話するほか、近隣の牧場も手伝う毎日。それぞれ作業の工程や時間が違うため、やり方を一つずつ覚えるところから始まったそうです。また、牛の体調や、けががないかを小まめにチェックし、異変を感じたらすぐに報告するように心がけています。

忙しい作業の間も、牛たちに優しいまなざしを向ける山崎さん。彼女が搾乳した牛乳は、伊勢原産の生乳だけを使用した「いせはら地ミルク」にも使われています。

「周りの方からそう言われて実感がありました(笑)。自分が搾った牛乳が入っているんだと思うと、うれしいですし、やりがいがありますね」。

牧場主の荒井新吾さん(58歳)も、「他の牧場の手伝いもしているの、いろいろな牛を見ている。だから牛のことは僕より詳しいんじゃないかな」と、その働きぶりに太鼓判を押します。

それでも、本人の姿勢はあくまで謙虚。「牧場の中には一人で切り盛りされている所もあるんです。今後手助けできればと思っています」。活躍の場は、さらに広がります。

担 農業振興課 ☎94-4664